

(自然保護委員会活動記録)

バイカモ観察会

武田 壽夫 (自然保護委員)

◆日時：令和元年 5 月 18 日、10:00～13:00

◆場所：兵庫県神河町新野(ニノ=播但線 新野駅下車)

◆参加者：石原順子、斧田一陽、桐村登美枝、武田壽夫、田島聖子

計5名

<記録編>

◆播磨の「バイカモ」

「バイカモ」は涼しい清流中に育つ多年生の水草。学名”*Ranunculus nipponicus* var. *submerses*”日本の固有種らしい。関西では醒ヶ井が有名だが、駅近で会える新野の郷も捨てがたい。ということで、観察会を挙げる。事前に観光協会に確認した処、今年は5月初旬から開花が始まっているとのことで、当初予定を一カ月繰り上げ。新野は水車の里としても知られていて昔懐かしい田舎の風景を楽しむネライもあった。

◆新野は朝来から流れる市川が開いたやや広やかな谷の村、バイカモは山裾の湧水を引いた用水路に育つ。湧出部の水温は 14℃、川床の砂地から濃緑色の葉を伸ばし、花を咲かせている。

水車の方は 5/26(日)が「水車まつり」だが、人手が減った所為か放置された田が増え、以前より数が減っているようだ。それでも何台か「健気」に水揚げに働いていて、米搗き小屋も健在。足を伸ばして村外れの古刹「正徳寺」と村社「熊野神社」も訪ねる。

古老お二人の話も収穫で、水源近くではバイカモが育つ水路の清掃には「水車の会」の人達はあまり力を貸してくれないとか、旧幕時代は高瀬舟で姫路に米を運んだ話、さらには、室町時代からの故事など、印象深い話が沢山。里は、さながら唱歌「兎追いしかの山……」の趣き。播但線車窓からの拾い物二つ。①東からの姫路城(山里郭?と天守)の遠望 ②シイの花、緑に黄色の群れが混じり中々魅力的。

<写真編>



【山からの地下水が湧きでる水槽】

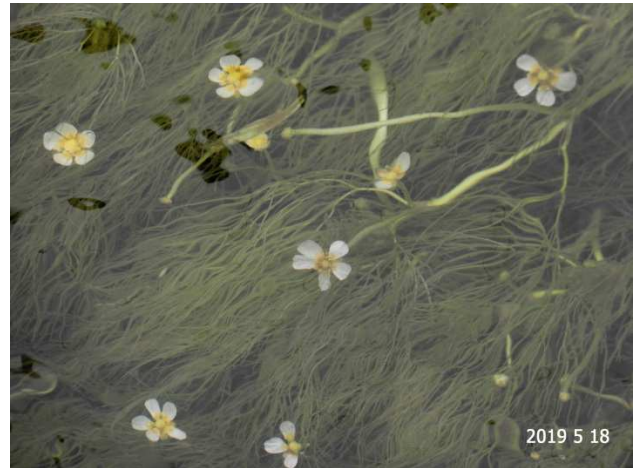


2019 5 18

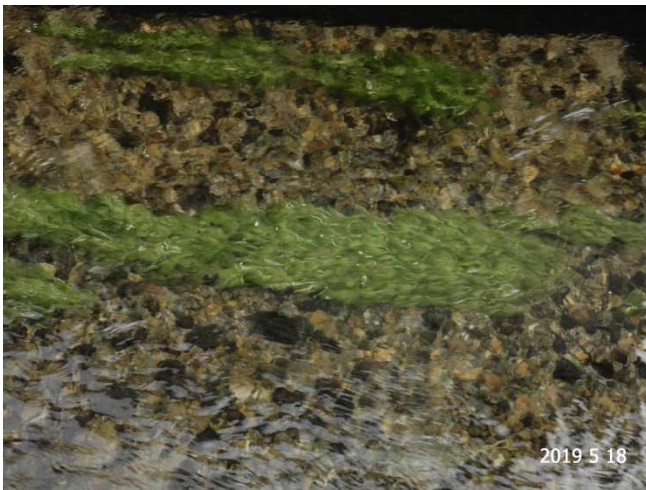
【バイカモが咲く用水路】



【水面に顔を出したバイカモ】



【砂地に根を下ろし流れに葉を伸ばすバイカモ】



【水路の蜻蛉】



【里の水車小屋】



【山裾の「手作り動物園」】

